



三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2019. 5. 20

No.2312 No.34

Rotary



会長挨拶

三条南ロータリークラブ 会長

田代 徳太郎

Tokutaro Tashiro

皆さんこんにちは。34回目の例会です。

今月は青少年奉仕月間です。青少年奉仕委員長の丸山智委員長のご紹介で、寺子屋つばさ 100km 徒歩の旅実行委員会より団長の坂井伸（さかい・しん）様に卓話をお願いしました。坂井様ようこそいらっしゃいました。のちほど宜しくお願いします。

さて、日本社会の人手不足は相当に深刻です。産業界ばかりでなく、介護や医療などの現場でも同様に言われています。私たち食品業界も例外ではなく、同業者の集まりの度に話題になります。いったい、人＝労働力はどこに消えたのでしょうか？ なぜ足りないのでしょうか？

4月の初め頃だったと思いますが、休日の折込チラシに混じていた紙面に目が止まりました。ファスナー、サッシなどの大手 YKK の関連会社の技術者募集のチラシでした。職種を見ると金属加工の「技能者」を募集していました。

何故注目したのかと言いますと、勤務地が富山県黒部市周辺らしいこと、チラシを撒いたこの三条・燕地区はもちろん金属加工を生業とする中小企業の集積地であることからです。

新潟は広い面積の県です。富山県との県境などの隣接地区へ募集チラシを撒くなら理解もできます。しかし黒部市と三条市の距離は道路距離で 180～200km、高速道路で 2 時間 20～30 分かかります。首都圏などの大都市圏の新幹線通勤とは事情が違います。

大企業の給与水準、社宅や独身寮など福利厚生施設、正社員採用など、好条件を提示して、ターゲットを絞り、中小企業の金属加工技術経験者人材の引き抜きを図っているように感じました。体力の強い会社が、弱いところから人材を奪っていく構図に思えました。

日本商工会議所会頭（東京商工会議所会頭兼任）の三村氏は日本経済の最大の課題として、人手不足とそれに伴う経営の持続性確保を指摘しました。人材確保のために中小企業は防衛的な賃上げを余儀なくされていますが、限られた収益の多くを人件費に充当しているのが実態となります。このため、収益力の拡大を図り、付加価値を増大させなければ経営の持続性を確保できないことと、その解決策として①生産性の向上、②大企業と中小企業との収益格差の改善——を挙げていました。生産性の向上には「身の丈 I o T」による経営改善、熟練技能を I T、I o T、ロボット、A I などに代替する取組みの浸透に期待を寄せていました。

**ロータリーに
参加して
楽しもう**

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから—

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるかどうか

Rotary



インスピレーションに なるう

国際ロータリー会長 バリー・ラシン [バハマ]
 第2560地区ガバナー 川瀬 康裕 [三条]
 第4分区ガバナー補佐 久住 勲夫 [分水]
 会長 田代 徳太郎
 幹事 永桶 俊一
 S A A 石山 昌宏

事務局
 〒955-8666 三条市旭町2-5-10
三条信用金庫本店 内
 TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095
 E-mail info@sanjo-minami.jp
 U R L http://www.sanjo-minami.jp

また収益格差の改善には、大企業と中小企業がサプライチェーン全体の中で、例えば様々なコストアップを各々が適切に負担する、あるいは大企業が中小企業のIT化などに協力して共存共栄を図ることが必要との認識を示した、とあります。この部分の綺麗ごと、抽象的で、よく理解できませんでした。

生産性の向上を図って収益力をアップする以外には、人手不足改善と事業の継続は難しいということです。漠然と同じことをやらずに、常に工夫、改善していくことでしょうか？

来週は、三条商工会議所の兼古耕一会頭がお見えになります。どんなお話が聞けるでしょうか。会長挨拶を終わります。

出席者

48名中27名

先々週の出席率

89.13% (4/22)

先週のメークアップ

5/15 三条RC 西潟精一君 田中康之君

5/18 十日町北RC 50周年記念式典
田代徳太郎君 永桶俊一君



幹事報告

永桶 俊一 幹事

◆大谷ガバナーエレクト事務所より 「地区研修・協議会御出席御礼」の送付

2019年5月11日(土) 於：上越市・デュオセレッソ

出席者： 荒澤威彦君、長谷川直哉君、池田亜津子さん、内藤豊大君、
木村 譲君、齋藤嘉一君、永井篤利君、吉沢栄一君

◆三条ローターアクトクラブより 「カクテル講習会のご案内」の送付

日時：2019年6月19日(水) 19:30～

会場：オールドBAR モンツァ (三条市本町2)

登録料：ピジター無料、ロータリアン5,000円

締切：6月12日(木)

※会員増強のイベントです。若い従業員の方などをお誘いしてご参加ください。

◆「2019-20年度ロータリー手帳」

※御入用の方は、事務局までお声掛けください。



ニコニコボックス

5月20日 ¥6,000

今年度累計 ¥525,000



田代君 一昨日は十日町北RC50周年行事に行ってきました。数日前から、暑くなってきました。皆様体調管理に気を付けてください。

永桶君 暑い日が続きます。体調管理にお気を付け下さい。出席宜しくお願ひします。

銅冶君、渡邊(久)君、渡邊(光)君
BOXに協力します。

永井君 BOXに御協力ありがとうございました。



「寺子屋つばさ 100km 徒歩の旅に於ける 奉仕活動の真実」

寺子屋つばさ 100 km徒歩の旅 団長 坂井 伸 様



●事業の姿

2007年に(社)燕三条青年会議所(以下燕三条JC)が10周年記念事業として当時の「全国100km徒歩の旅推進協議会」からの指導を受け「100km徒歩の旅」を企画する事になりました。しかし、想像していた以上に準備に時間が掛かる事が分かり、直前になって開催を中止するという苦渋の決断をする事になりました。

翌年2008年、前年度の想いを引継ぎ当時の理事長が「100km徒歩の旅」の開催を再度計画。担当の委員会が作られ、「第1回寺子屋つばさ100km徒歩の旅」が無事に開催されました。この時の燕三条JCの事業は全て「青少年育成事業」にあてられ、全ての委員会の冠には「寺子屋」の名称がつけられました。その理事長が初代団長嘉瀬一洋です。その後、第4回までは燕三条JCの主管として開催され、毎年団長が変わるというJCならではの100km徒歩の旅が行なわれ、徐々に参加小学生、学生スタッフの参加が増加していきました。

第4回終了と共に、これまでの燕三条JCでの団長経験者等が集まり「寺子屋つばさ100km徒歩の旅実行委員会」が設立され、第5回から実行委員会の主管での開催となりました。燕三条JCとはその後も人員を派遣していただくなど、万全なる協力体制で共催団体としてお手伝い頂いています。第8回では実行委員会内から団長を輩出し、嘉瀬団長から第2回100kmの実行委員長であった坂井に交代しました。

実行委員会主催になってからは、学生スタッフ募集活動は学生スタッフが主体になって活動しており、主に大学の多い新潟市での活動となっています。燕三条と呼ばれる県央地区とは40kmほど離れており、第10回からは試歩のある研修は電車で燕三条地区へ来て研修。他の研修は新潟市で行なうようになりました。

小学生参加者の応募はほぼ100名の応募が来るようになり、学生スタッフは5月時点で80名を越える大学生が集まります。

現在多くの学生スタッフ卒業生がどんどん社会で活躍し、実行委員会に帰ってきています。このように、社会に貢献できる人材を育て地域の企業に就職してもらい地域活性につなげ、この国の未来を明るく豊かにする事が事業の本当の姿なのです。

●寺子屋つばさとは

新潟県の中央に位置する、燕市の「つば」三条市の「さ」の字をとって、「寺子屋つばさ」という名称で「地域の子どもは地域で育てる」という寺子屋教育を現代でも推進していこうという思いから付けられた名前です。また、燕市、三条市をつなげて見ると、鳥が翼を広げたようにも見えます。やがて参加したメンバーが未来に力強く羽ばたいて欲しいという思いが込められています。

